レメディ・ポテンタイザー説明書

株式会社マインド・クラフト
2019/3

お買い上げありがとうございます。
この製品はレメディを作り出せる画期的な装置です。また、持ち運べるように配慮してあります。
この小冊子ではレメディ・ポテンタイザーの原理と使い方を説明します。
類似の製品はないため、類推せずに熟読してご理解ください。
なお、ホメオパシー、フラワーエッセンス、レメディについては十分ご存知であるという前提で解説しています。
ご存知ない場合、当装置はなんの問題解決にもなりませんのでご注意ください。

基本原理

ホメオパシーとフラワーエッセンスについての議論

ホメオパシーは原料となる物質を水に入れ、その水を100万倍、数億倍、振盪(しんとう)しながら希釈します。
結果的にホメオパシーの薬液の中には現物質はほとんど存在しません。
フラワーエッセンスは花びらを、水をいれた鉢に浮かべ数時間太陽にさらします。結果的にできあがった水には花の現物質はほとんど存在しません。

それらが単なるプラシーボ効果しかもたらさないのであるならば、使用している治療院ではレメディは「賢者の水」のような万能薬として一種類だけあればいいはずですが、現場ではしっかりと使い分けがなされています。なんらかの理由により各レメディの性格が違うことは明白です。

ホメオパシーは「現物質」と呼ばれる物質が人体に引き起こす現象を水に転写し、その水に特定の症状と心理状態をもった体が共鳴した時に効果を発揮します。

「ハーネマンがじっさいにおこなっていたことは植物からの抽出物の 周波数と病気の周波数をマッチングさせることだったとおもわれる。」（バイブレーショナル・メディスン P101）

ここでいう「周波数」の実態はまだ科学的に解明はされていません。ホメオパシーやフラワーリメディを扱っておられる方々にはほとんど知られていませんが、それは鍼灸の経絡を流れる気、生体エネルギー、バイブレーションやサトル・エネルギーと呼ばれているものです。（「バイブレーショナル・メディスン」にはこういう話が満載です。）

ホメオパシーやフラワーエッセンスにおいては現物質が科学的には存在しないレベルなのにもかかわらず、呪術的な思いで現物質への期待をもつことは適切ではありません。とくに日本のホメオパスは権威に弱く迷信深いようです。

ホメオパシーをしみこませて乾かした乳糖ホメオパシーは水からつくったホメオパシーよりも保存性はよいです。
しかし保存性のよさが災いして、いつ、どこで、どうやって作られたか、過去の保存状態すらわからない由来不明のものは少なくありません。
ニューライフリメディですらリメディのセットを郵送したら、なぜか波動が抜けてしまったという事故を経験しています。

レメディは繊細です。レメディ・ポテンタイザーは必要に応じて新鮮なホメオパシーを作る積極的な意義があります。
もちろん、大量のレメディを準備しておかなくていいという空間的、時間的な効率のよさも忘れるわけにはいきません。

ラジオニクスについての議論

ラジオニクスは20世紀初頭に開発された波動を扱う技術です。
創始したアルバート・エイブラムスは医師であり人間の腹の皮膚をガラス棒でこするという方法で共振、非共振を判定していました。後年になりそれは物質が生体に及ぼす反応を利用したもので、振り子によるダウジングとかわらないということがわかりました。
ラジオニクスにおいて大きな発見は、物質、意識などを固有の「レート」と呼ばれる数値にあらわすことができ、逆に数値をセットすることで物質、意識の波動を作り出すことができるということです。
ラジエスセシア（放射感知学）とラジオニクスについて研究していたマルコム・ラエ、ブルース・コーペンにより「波動の転写」ということが可能であり、最初のレメディ制作がなされました。
現代ではやはりバイブレーション、サトルエネルギーを扱う技術だと認識されています。

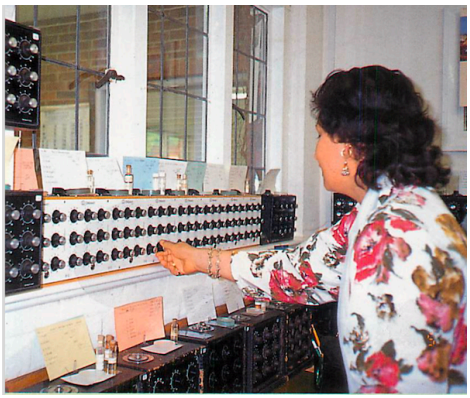
現在では世界でもっとも販売数の多いラジオニクス装置SE-5　1000(IDF分析機)を持ち運び、世界中でホメオパシーを制作して使っているホメオパス（ホメオパシーを処方する人）や製造企業もあります。
それはホメオパシーのみならず漢方薬のジャンルまで広がりつつあります。
またイギリスではSULIS社がレメディを作る装置を販売しています。そのサイト(http://www.sulisinstruments.com　)　には次のように製品について述べられています。

> マルコム・レイ氏が最初のレメディーメーカーを製造して以来、様々なタイプのレメディーメーカーが市場に出ました。しかしそれらの開発に携わったのは電気技師たちであり、ホメオパスではありませんでした。そんな中、電気技師でラジオニクス・プラクティショナーのトム・ラファティー氏とホメオパスのスティーブン・シルバー氏が共同でSULISのレメディーメーカーMK2の原型となるモデルを開発しました。

SE-5　1000やSULIS　Remedy　Makerのようなラジオニクス装置によりレメディの波動を転写してレメディを作るという考え方そのものは一般的なものでこの装置独自のものではありません。世界中に使用者はおり、日本にも多くの使用者がいます。

装置の使用者について

ラジオニクス装置を使い波動の共振状態を検知するには、波動への感受性をもつか、トレーニングをしなければならないものです。

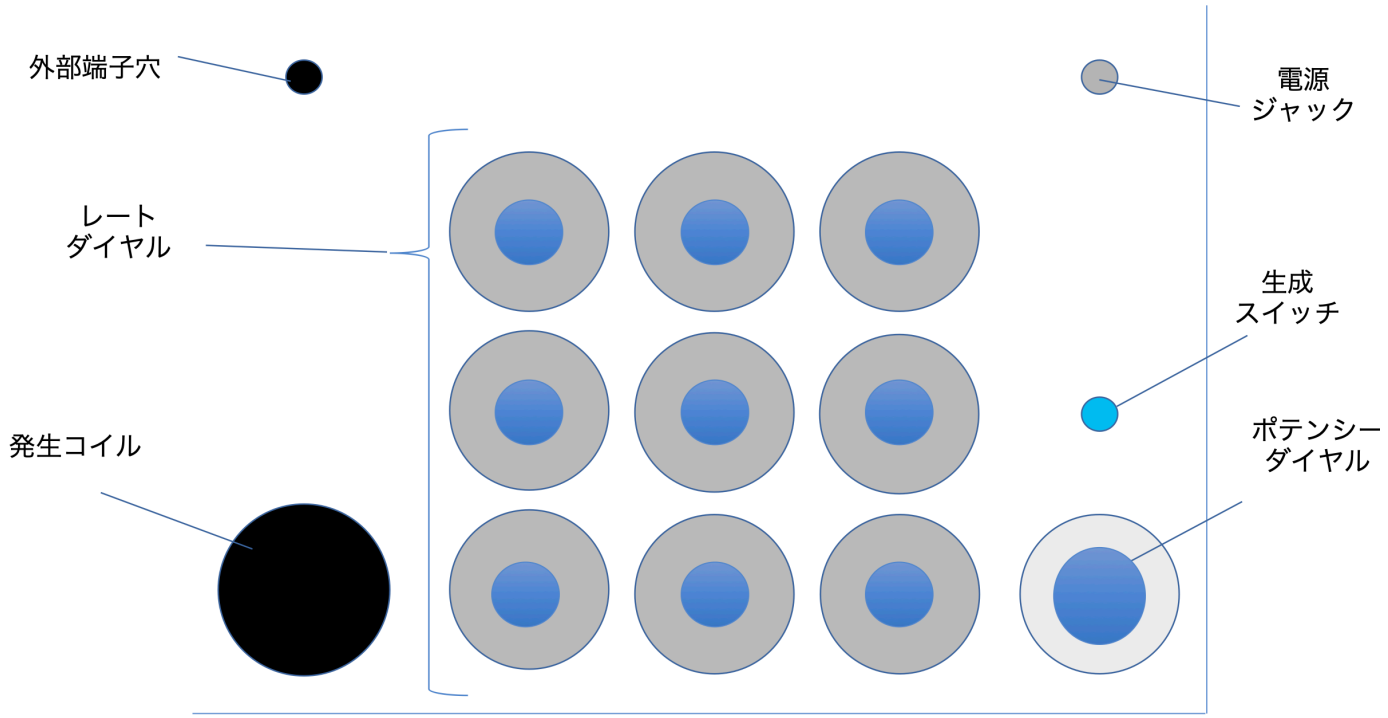


しかしいったんレート（数値）が確定したものを操作することは誰もができます。
この写真はイギリスのデラワー研究所でラジオニクス装置を使い、遠隔治療のために治療レートをセットしているところです。操作している人はアルバイトのインド人の女性です。特別な能力をもった人ではありません。レメディ生成装置はどなたが操作しても結果がでます。

使い方

概念

レメディ・ポテンタイザーでレメディを作成する時にはレート、ポテンシーというふたつの概念をご理解ください。
レートとは物質の波動を表す数値、ここではとくにレメディ固有の波動を表す数値です。
レメディ・ポテンタイザーには数多くのレメディのレートを記した辞書（オンラインやPDFの形で）が付属します。そのレートを機器にセットすることで目的のレメディを生成できます。
ポテンシーとはホメオパシーにおける希釈度です。
下図がレメディ・ポテンタイザーのパネルです。



手順の概略です。パネルを見ながら操作を追ってください。

1. **電源ジャック**に電源を差し込みます。
2. **作りたいレメディのレートを調べます。（例：Aconitumのレートは5378）**
3. **９個のレートダイヤル**にレメディのレートをセットします。
4. **ポテンシーダイヤル**はレメディの希釈度合いを決定します。
5. **発生コイル**に制作するレメディボトルを入れます。
6. **生成スイッチ**を押すと生成、転写が始まり自動的に終了します。

以上の6ステップです。

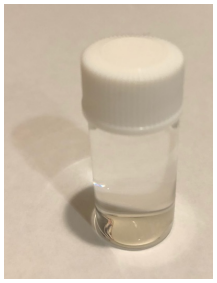
概要がわかったところで、各手順の詳細の説明をします。

準備

レメディ・ポテンタイザーの同梱品は以下のとおりです。欠落したものがないかご確認ください。

- 本体
- 5VACアダプター
- USB電源ケーブル
- 転写用外部ケーブル
- マニュアル、資料は http://potentizer.remedy.academy からダウンロードしてください。

レメディボトルを用意します。次のようなサンプル管に水を入れます。



水は経験的にミネラルウォーターが好ましいです。ホメオパシーの創始者ハーネマンが生きていた時代には浄水などという概念はありませんでした。奇しくもミネラル分の多い水のほうが波動をよく記憶することがわかっています。

飲料に使うならそのままで結構です。

ニューライフリメディ療法などで、ボトルをかざして使う場合は長期間保管のため、エタノールを30%ほど入れてください。この場合、飲むことは想定しないでください。

乳糖を使ってもよいですが、その乳糖が新しく適切に保管されてお手元に来たものであることをご

確認ください。波動的に汚れた乳糖は効果を発揮しません。

電源の準備
この装置は持ち運びしやすい大きさなので電池でも駆動できるように、USBケーブルが付属しています。
とりあえず使うため、室内で使う場合は付属のACアダプターをお使いください。
USBケーブル自体はACアダプター以外にも携帯電話の充電器、パソコンなどに差し込むと電源が取れます。

基本操作

1. 電源を装置に接続します
   I. 電池を入れた付属の電池ボックスか、5VACアダプターを電源プラグに差し込んでください。
      5V以上の電圧を加えると装置は回復不能のダメージを受けます。必ず付属のアダプターをお使いください
      この時にはまだリメディボトルをセットしないでください。
   II. 電源接続時に自動で装置のクリア処理が実行されます。クリア処理の間、LEDが点灯しています。
      （クリア処理を繰り返すために電源の抜いてすぐに差してもLEDが点灯しない場合、電源を抜いてボタンを押して放電させてから、電源を差してください。）
   III. 終わるとLEDは消灯し、装置はスタンバイ状態になります。

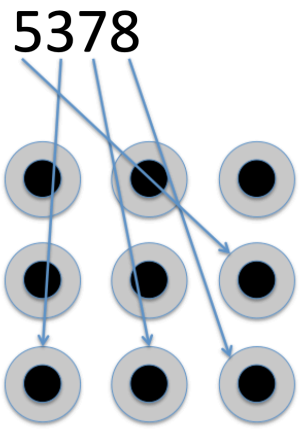
2. 次につくりたいレートを調べます。
   例えばアコナイト(Aconitum)をオンライン辞書(http://potentizer.remedy.academy)やレートブックで調べるとレート5378が見つかります。
   I.

ID 41
Category Homeopathic Remedy - A
Name Aconitum
Rate 5378

Acidum Hippuricum	1363
Acidum Sarcolactum	2212
Acidum Sulfurosum	1101
Aconitum	5378
Aconitum Cammarum	3403
Aconitum Ferox	4621
Aconitum Lycoctonum	5115
Aconitum Napellus	2557

3. レートを次のようにセットします。レートのもっとも右の桁をダイヤルのもっとも右下から順にセットしていきます。**ダイヤルは0-10だとみなしてください。**

2022年7月25日からダイヤルは目盛りが0-10となっています。



4. 次に ポテンシーダイヤルを回してセットします。このダイヤルは0から100まで多回転させることでセットできます。
一般的に市販されているホメオパシーがCの単位(1Cは100倍)です。この装置でも1Cから100Cまでの製造が可能です。
ここでは30Cにセットしています。窓が2桁目（３）でダイヤルが一桁目（１）です。

(右のレバーはダイヤル固定用です。もし回転が重い場合は数字窓方向に押し上げてください。)

2022年7月25日よりポテンシーダイヤルは他ボリュームと同じ一回転式となりました。

目盛りをみて設定してください。

5. 左下のコイル内にリメディボトルを入れます。
6. 生成スイッチを押します。
約14秒で完成です。

連続して作りたい場合は、ステップ２から始めます。いちいち電源を抜く必要はありません。

＊仕様上、生成中にスイッチを押しても動作は止まりません。
間違えたレート、ポテンシーだった場合、ボトルの水は廃棄してください。

応用操作

ミックスレメディ

複数のレメディを混ぜて、波動が打ち消し合うものでない限り、ミックスレメディを制作することが可能です。
この場合、制作したレメディをビーカーなどに保管しておいて、倍の水で希釈し、よく混ぜて制作してください。
例えば、5種類のミックスを作る場合、3ccずつ作ると3x5=15ccのミックスができます。
これに同量の15ccの水を入れ、よく撹拌して30ccのミックスレメディができあがる、ということです。

転写

付属の転写用外部ケーブルを使って、他のレメディ、フラワーエッセンス、パワーストーン、護符などのエネルギーを転写することが可能です。
次のように接続します。転写ケーブルの先端は適当な金属缶、金属板などをクリップしてください。
レートダイヤルはすべて０にします。ポテンシーは作りたい数値にあわせます。迷った場合は０Cにしてください。
左下のコイル内にレメディボトルを入れ、生成スイッチを押します。
LEDが消灯したら完成です。

メンテナンス

レメディ

作成したレメディは冷暗所、かつ、電磁波の届かないところに保管してください。
携帯電話、テレビ、電子レンジなど強い電波を出す機器のそばに置くことは避けてください。
また日光も強い電磁波ですから避けてください。
輸送時はアルミホイルに包むことをオススメします。
水が腐食しない限り、数年は波動を保持するようです。

本体

使用しない時はダイヤルをすべて０にしておいてください。電源を入れてなくてもラジオニクスとしての波動は存在します。
よごれは水拭きしてください。
よごれのひどいところは薄めた洗剤かアルコールで拭き取って、水で洗剤をよく拭き取ってください。
内部は電子回路です。防水ではありません。
電源を差し込んでボタンが光らない時は電気が供給されているか、よく確認してください。

強いショックを与えると壊れることがあります。
本体の保証期間はお買い上げ日から２年です。

-- 文書の終わり --